

心に響く名作から読み解く

# 愛媛の風土

愛媛を舞台にした小説やドラマには作者や登場人物の心情とオーバーラップした地域の素顔が垣間見られます。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』をはじめ、愛媛ゆかりの作品を通して、愛媛の風土に触れてみませんか？



## 『坂の上の雲』のまち松山

### ●小説『坂の上の雲』のあらすじ

明治維新後、近代国家の仲間入りを目指す日本は、息せき切って先進国に追いつこうとしていた。何もかも新しく創りあげなければならなかったこの時代は、学問さえできれば何者にもなりえた。

小説『坂の上の雲』は、四国・松山出身の三人の主人公を中心としながら、日本における近代国家の形成を、大きな時代の流れの中で描いた長篇小説です。日露戦争においてコサック騎兵と互角にわたりあった秋山好古、日本海海戦の参謀秋山真之兄弟と、文学の世界に巨大な足跡を遺した正岡子規を中心に、昂揚の時代・明治の群像がいまいきと描かれています。



小説の世界を詳しく知るならコチラ

## 坂の上の雲ミュージアム

松山のまち全体を屋根のない博物館とする『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の中核施設。小説に描かれた主人公3人の足跡や明治という時代に関する展示に加え、まちづくりに関するさまざまな活動を行い、訪れた人々が時の流れについて感じ、考える場を提供している。松山城周辺の歴史や文化を意識して考えられた建物の設計は、日本を代表する建築家・安藤忠雄氏。



2007年4月にオープンした博物館

## 松山出身の三人の主人公



### 正岡子規 まさおか しき

(1867~1902) 俳人・歌人

伊予松山藩士の次男として生まれる。秋山真之は竹馬の友。自由民権運動の影響を受けて政治家を志し、大学予備門時代に生涯の友・夏目漱石と知り合う。

東京帝国大学を退学し、俳句の道に転じ「俳句革新」を志す。日清戦争では従軍記者となるが、帰りの船中で咯血し、肺結核で病の床に。明治維新以後の日本文芸再出発の時期に、近代俳句、短歌、文章の革新に歴史的役割を果たした。

### 秋山真之 あきやま さねゆき

(1868~1918) 軍人(海軍中将)

秋山好古の実弟。さらに正岡子規とも親交があり、その文才も高く評価された。

日本海軍史上きっての戦略家といわれ、海軍兵学校を首席で卒業。日本海海戦では敵艦隊を殲滅し日本海軍を圧倒的な勝利に導く。連合艦隊司令長官東郷平八郎は、真之を「智謀湧くが如し」と称賛し、幹部は、ほとんどの作戦を彼に一任していたという。



### 秋山好古 あきやま よしふる

(1859~1930) 軍人(陸軍大将)・教育者

伊予松山藩の貧しい下級武士の家に生まれる。大阪師範学校、陸軍士官学校へと進み、4年間フランスに留学し、ここで騎兵戦術を研究する。日清・日露戦争に出征、「日本騎兵の父」の異名をもつ。晩年は軍を離れ郷里松山の北予中学校長(現松山北高等学校)に就任する。連合艦隊参謀の秋山真之は実弟。

## 小説とまちづくり

小説『坂の上の雲』の主人公3人が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れたのが、松山市の進める『坂の上の雲』のまちづくりです。松山城をはじめ、小説ゆかりの地域資源を最大限に活用し、主人公たちのように夢や希望を持ちながら、官民一体となって、「物語」が感じられるまちを目指す、それが全国ではじめて取り組む「小説を活かしたまちづくり」です。